

愛知大学総合郷土研究所 2025 年度春季企画展

近世の本-尾張と三河の書林-

近世中期以降、書物の出版・販売は三都（江戸・大坂・京都）書林仲間の許可なく全国流通できませんでした。そんな中、尾張藩と地元書林たちは板行の独立を求め、寛政6年に認められ、名古屋の出版文化が華開きました。一方、となりの三河の書林は副業や趣味の範囲の創作活動が主で、名古屋を通して出版し、販売や貸本をしていたと考えられます。

本展では近世に活躍した尾張や三河—おもに吉田城下—の書林やその版本を紹介します。



2025 年

4月4日(金)～6月27日(金)

会場：愛知大学豊橋校舎 大学記念館

開館時間：午前10時～午後4時

(12時～13時 昼休み・土日休館)

観覧料：無料



月光亭墨僊『写真学筆』

今回の展示は、NHKの大河ドラマに因んで出版文化にスポットをあてるそうだよ



葛飾北斎『北斎漫画』



栗杖亭鬼卯『復讐鬼娘傳』

記念講演会

「書物・出版は日本近世社会をいかに変えたのか」

〈講師〉

人間文化研究機構理事

一橋大学大学院特任教授・名誉教授

若尾 政希



2025 年

4月19日(土) 13:30～

〔会場〕 愛知大学豊橋校舎 6号館 610教室

〔定員〕 100名(予約不要)



問合せ先

愛知大学総合郷土研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1

TEL: 0532-47-4160

E-mail: kyodoken@ml.aichi-u.ac.jp

